

提 言

「小児保健研究」のaccountability

松尾 宣武 (国立成育医療センター名誉総長)

このたび、「小児保健研究」編集委員会から「提言」欄に寄稿を求められた。この機会に同誌の方向性について、あえて私見を述べたい。

第1に、「小児保健研究」はわが国の小児保健対策や行政にインパクトを与える、より質の高い情報提供を目指すべきではないか。このためには、論文の骨格、いいかえれば、study designの慎重な点検が必要不可欠であると思う。study designは、1)リサーチ・クエスションに対する答えを導くこと、2)研究遂行の具体的道筋を示すこと、3)誤った結論の可能性を出来る限り排除することを、主要な目的とする。しかし、「小児保健研究」に掲載される論文には、study designを欠落したものが少なくない。その結果、これらの情報は行政にも社会にもほとんどインパクトを与えないで終わる。

第2に、「小児保健研究」は国際的に、より積極的に情報発信するべきではないか。特に、わが国の実態を表す小児保健、母子保健データ (large nationally representative data) に関する論文や情報は可能な限り英文でも報告されることが望ましいと思う。手始めに、質の高い論文には、英文抄録とキーワードを付すことが考慮されてもいいと思う。出生率のトレンドの例をあげるまでもなく、韓国、台湾、香港、シンガポール、マレーシアなど情報の国際化を進めているアジア諸国との小児保健情報の相互利用は、今後のわが国の小児保健対策に資する点が少なくない。

今後、少子社会の進展に伴って、「小児保健研究」の重要性は益々高まると予測される。同誌のaccountabilityをいかに高めていくか、編集委員会の自己点検に期待したい。



リトルレディー